

# 平成31年度当初予算 予算編成方針説明会



企画財政部 財政課

次なる  
茨木へ。



茨木には、次がある。

## Chapter 1

---

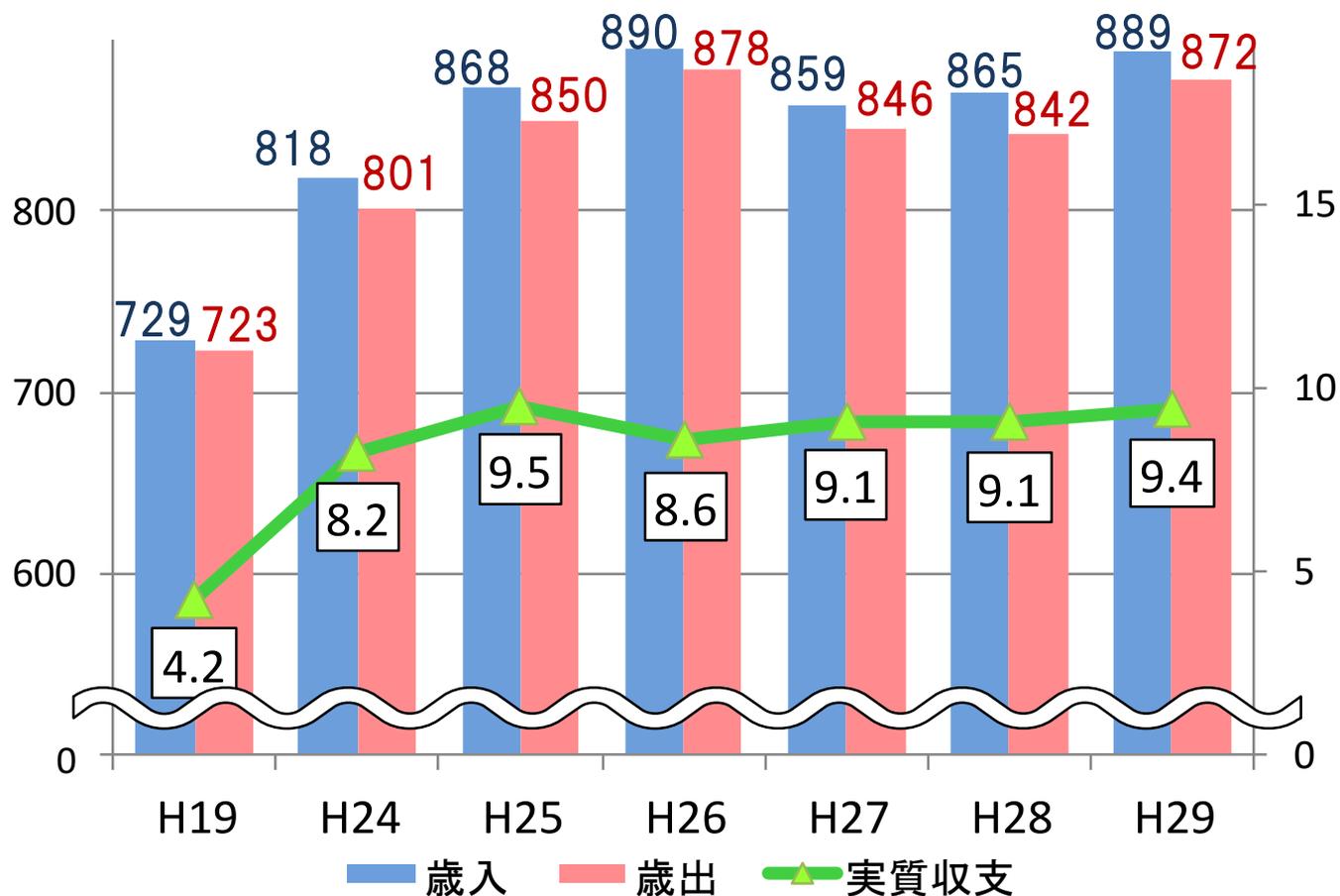
# 茨木市の財政状況

---

税等一般財源の伸び以上に社会福祉経費の増大により、厳しさが増す…

# 財政規模の推移（一般会計決算）

（単位：億円）



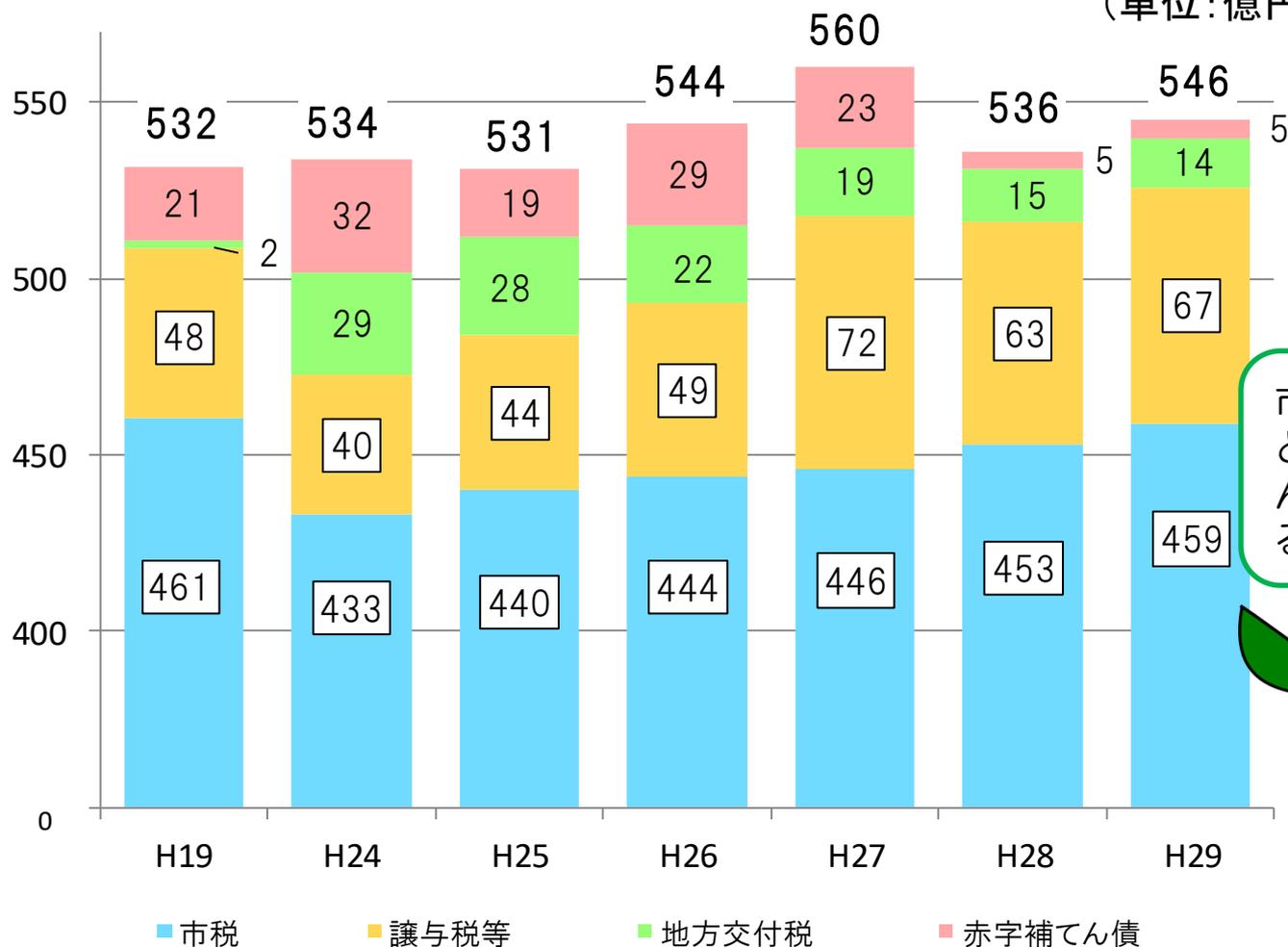
近年は臨時福祉給付金や国の経済対策交付金等の活用により少しずつ増えているんだ



※H26・H28・H29は借換債（H26：19.1億円、H28：5.4億円、H29：7.6億円）を含む

# 税等一般財源の推移 (一般会計決算)

(単位:億円)

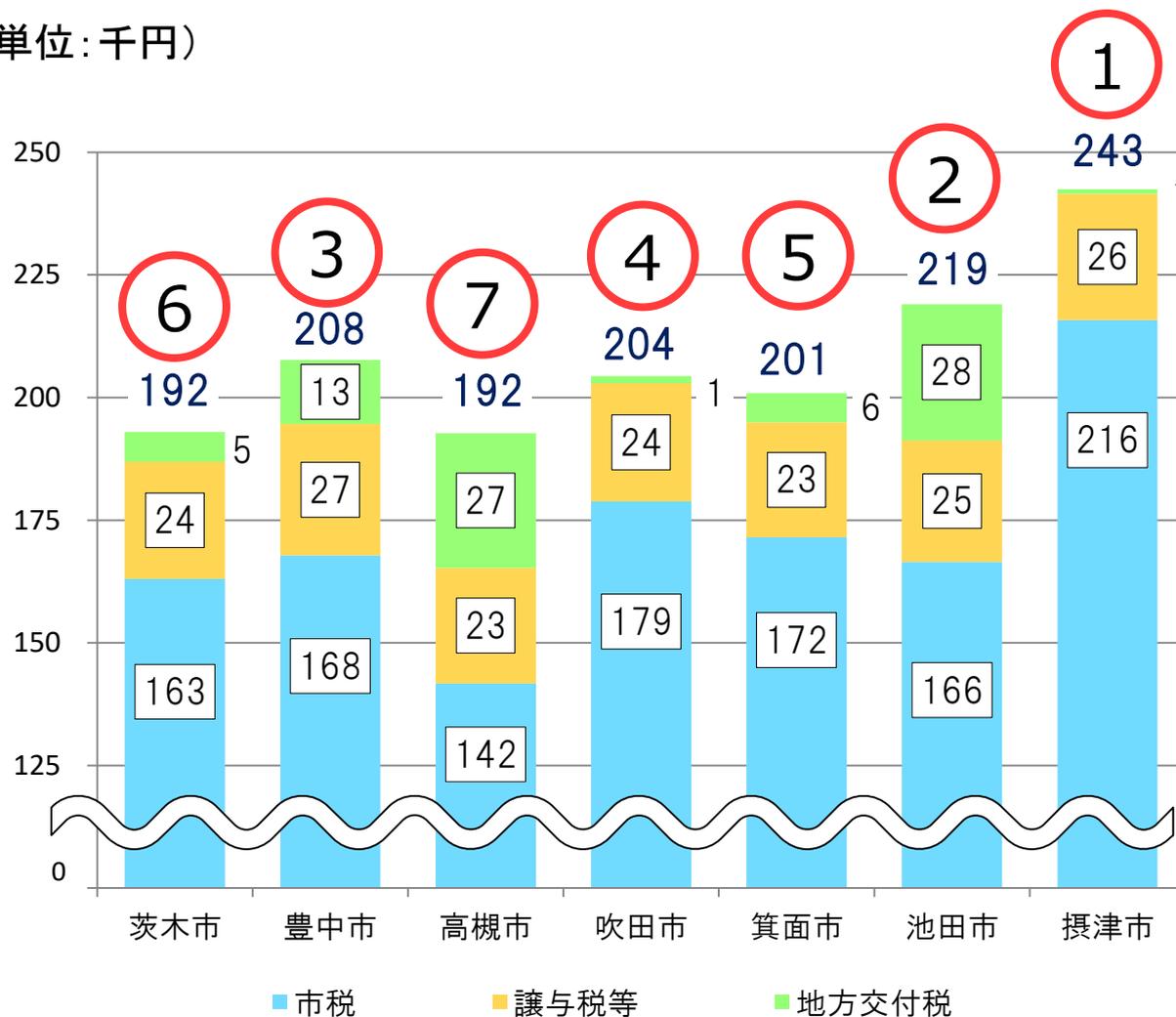


市税は増加傾向だけど、地方交付税がだんだん減っていったるね…



# 市民一人あたりの税等一般財源（北摂比較）

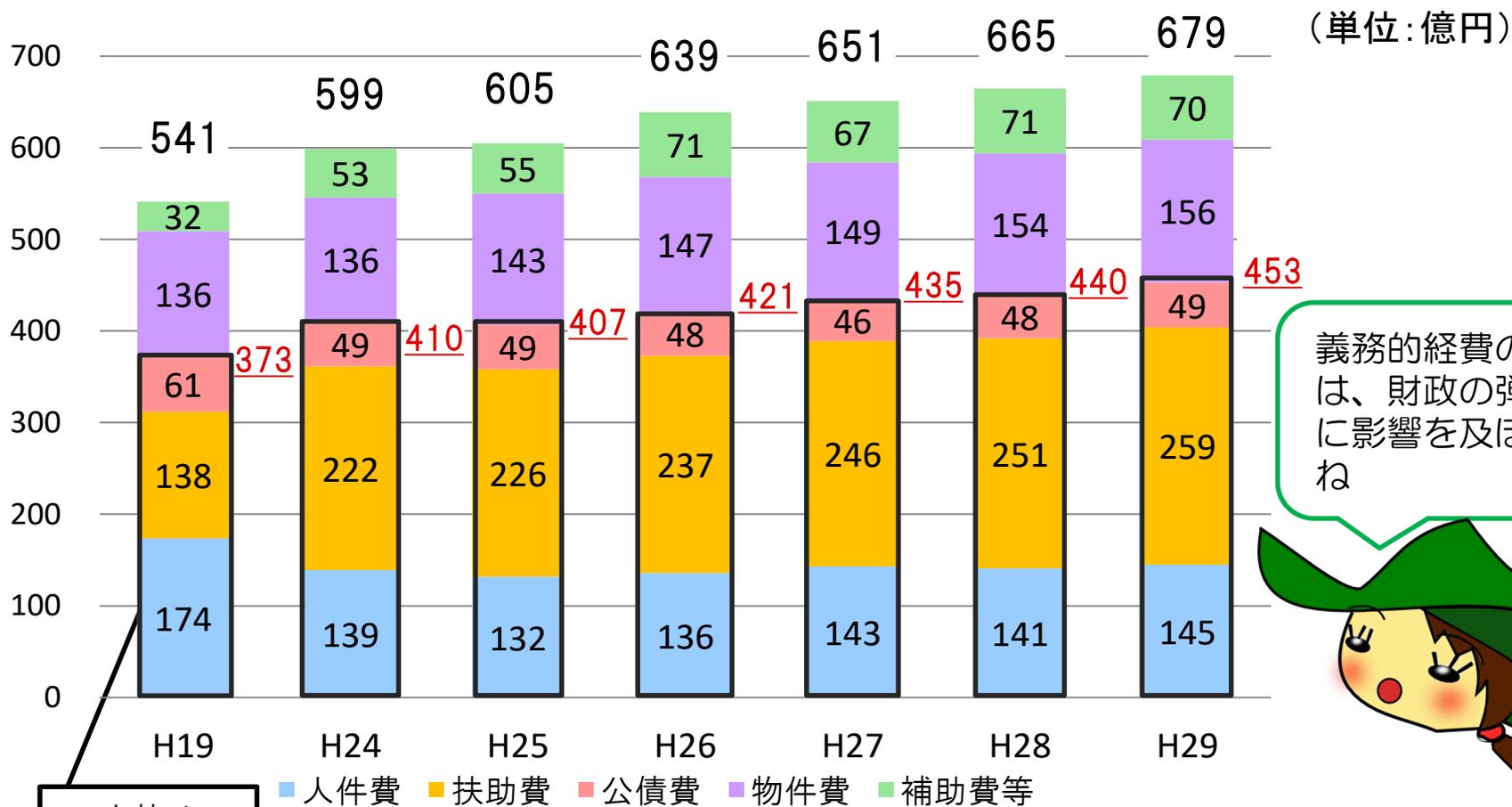
（単位：千円）



市税と交付税が北摂の中でも決して多くはないねんなあ



# 主要な経費〈事業費〉の推移（一般会計決算）

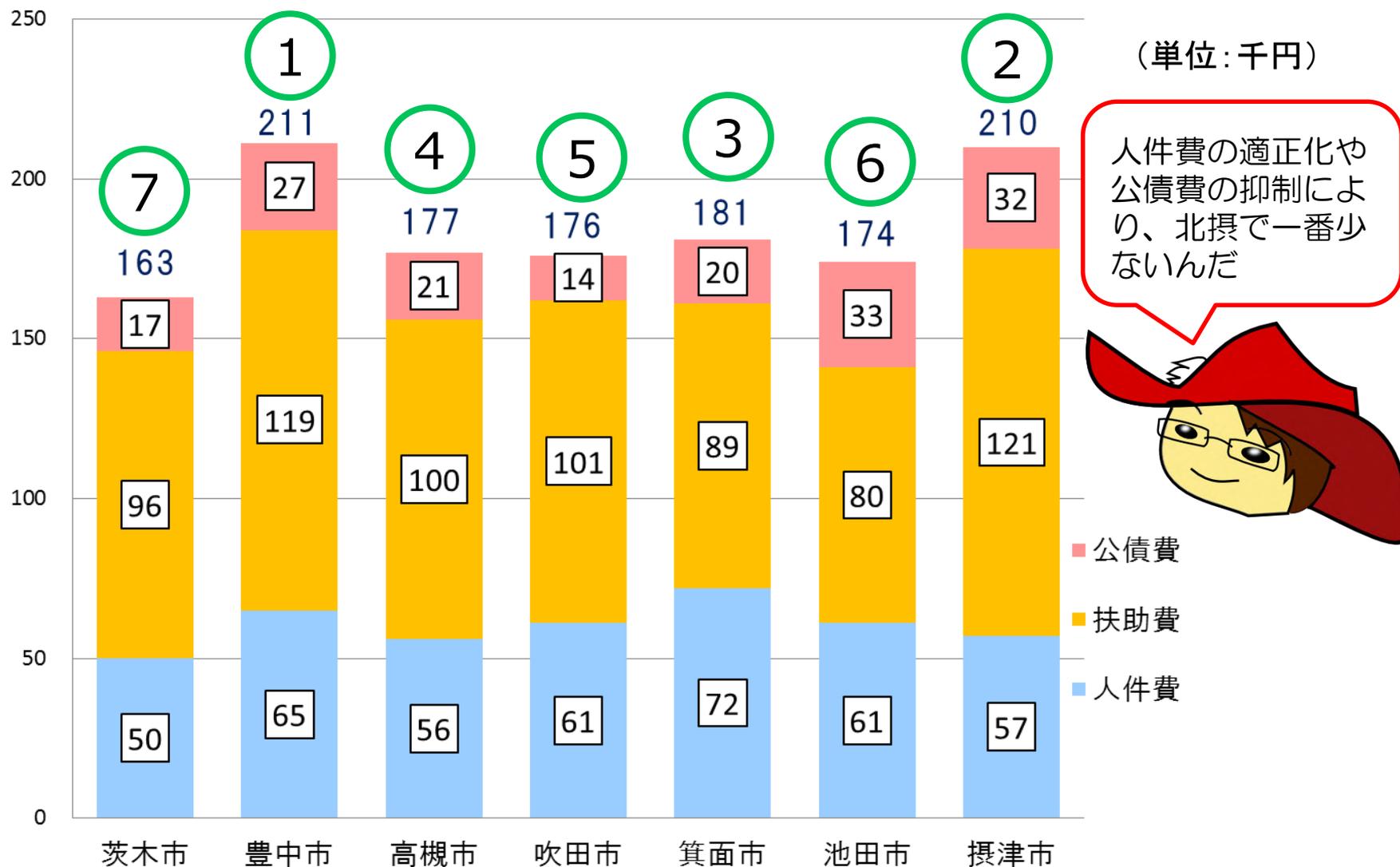


義務的経費の増加は、財政の弾力性に影響を及ぼすよね

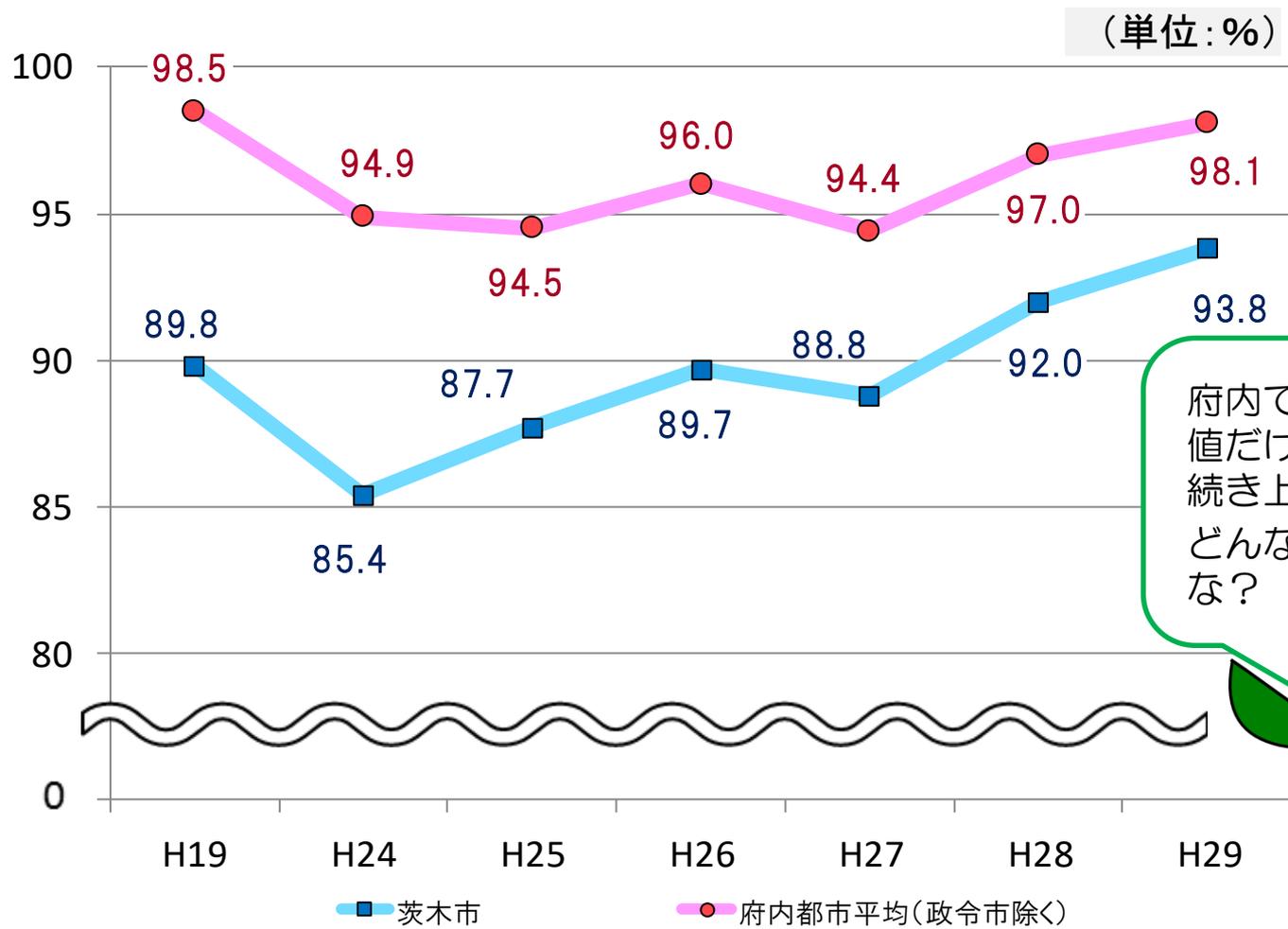


※H26・H28・H29は借換債を除く。

# 市民1人あたりの義務的経費（北摂比較）



# 経常収支比率の推移

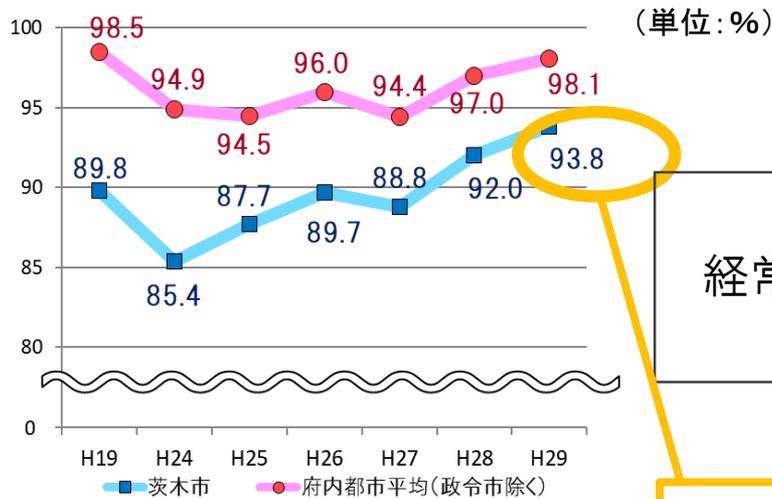


府内では比較的良い数値だけど…H29も引き続き上昇しているね。どんな要因があるのかな？



※H29は市試算による暫定値

# 経常収支比率について



経常収支比率は、次の式で求められるんだよ



$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費充当一般財源}}{\text{経常一般財源} + \text{臨時財政対策債}}$$

H29決算の数値をあてはめると…

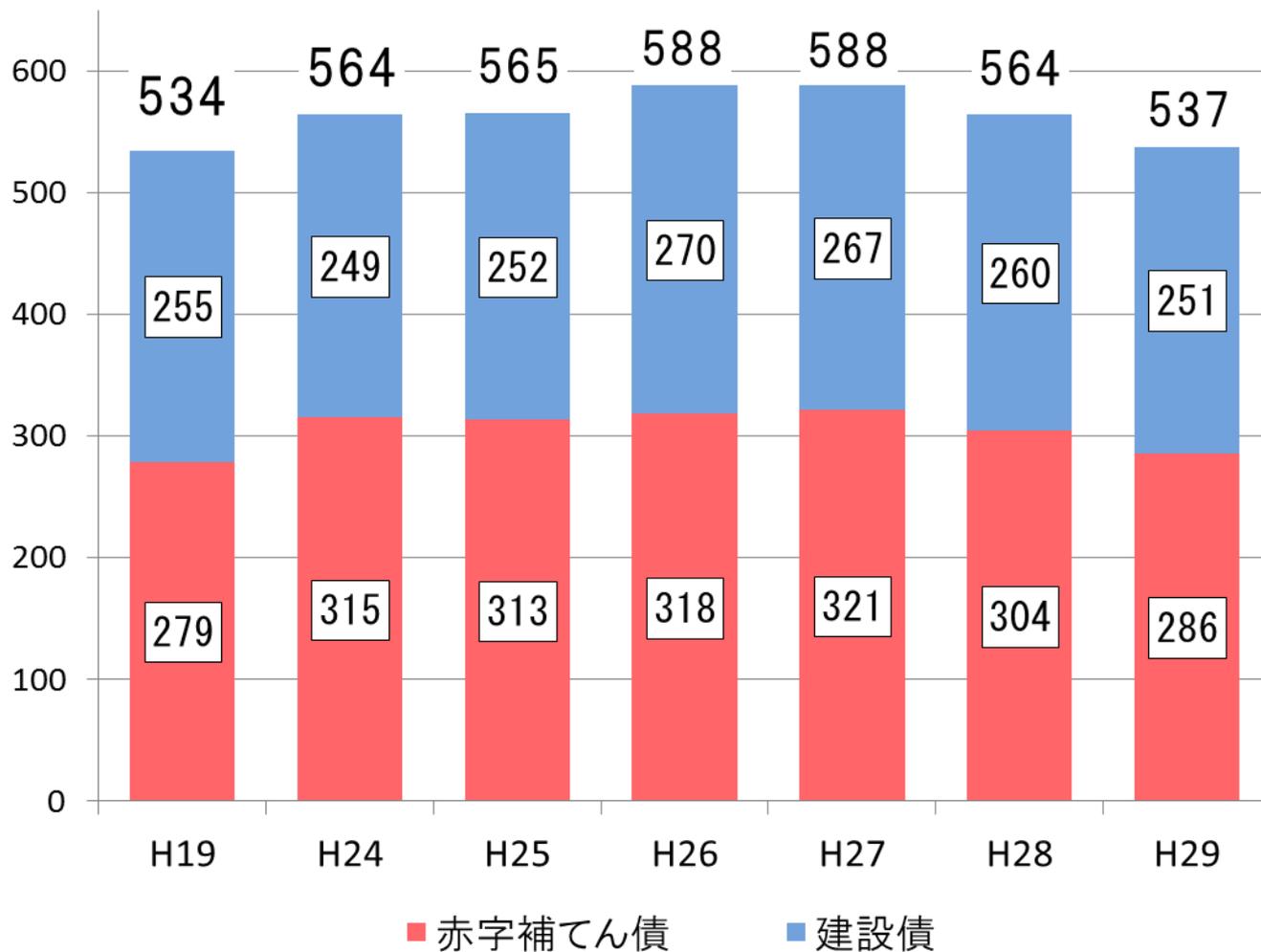
$$\text{経常収支比率} = \frac{481.4\text{億円} \quad \uparrow \text{H28決算比 (+18.2億円)}}{508.2\text{億円} + 4.9\text{億円} \quad \begin{matrix} (+9.8\text{億円}) & (\pm 0\text{億円}) \end{matrix}}$$



H29は、分母の「経常一般財源」以上に扶助費等の増により分子の経常経費充当一般財源が増加したから、H28よりも比率が上昇したのね

# 市債残高の推移

(単位:億円)

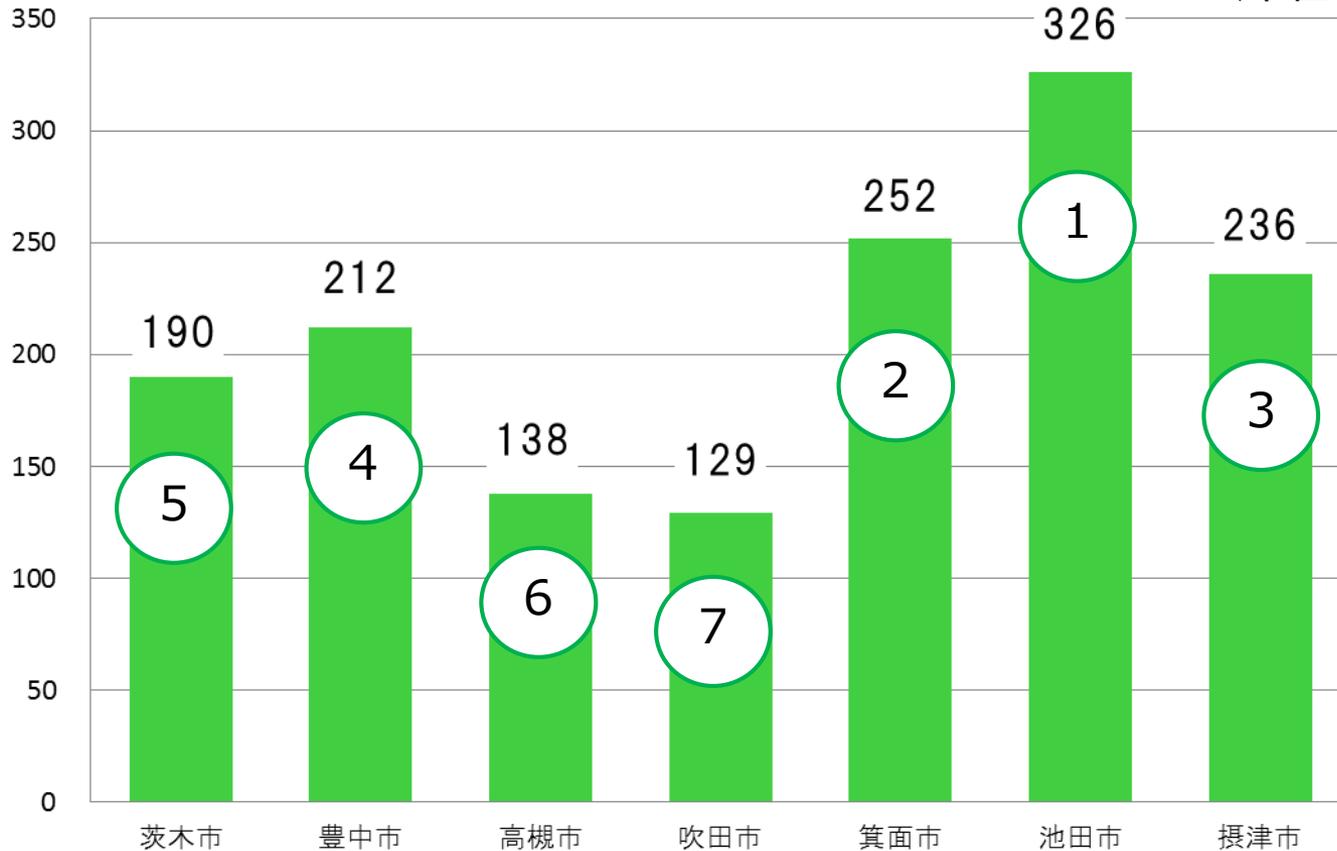


H29も引き続き、  
建設債、赤字補てん債ともに残高を減らせてんな



# 市民1人あたりの市債残高（北摂比較）

（単位：千円）



## Chapter 2

---

# 財政計画

---

今後の財政見通しに基づき、  
将来を見据えて健全性の確保に努める

---

# (1) 今後の財政見通し

---

何も手立てを講じなければ、平成31年度から  
収支の均衡が崩れだし、財源不足額が累積

# 財政収支の見通し

(単位:億円)

中長期財政見通し		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
A 経常事業	①歳入	837	844	847	847	851	850	851	851	850	852
	(1) 市税	464	469	461	465	470	465	469	474	468	472
	(2) 譲与税・交付金	65	79	81	81	81	81	81	81	81	81
	(3) 地方交付税	13	7	9	8	6	7	6	5	6	5
	(4) 市債(臨時財政対策債)	17	8	10	8	6	8	6	3	6	4
	②歳出	797	813	815	818	823	819	820	816	815	816
	(1) 人件費	150	152	151	152	154	153	156	154	154	154
	(2) 社会福祉経費 ※1	359	372	376	380	382	385	387	389	391	392
	(3) 公債費	51	52	52	51	50	44	40	36	34	32
	(4) その他	237	237	236	235	237	237	237	237	236	238
収支(①-②)	40	31	32	29	28	31	31	35	35	36	
システム最適化	③システム最適化経費 ※2	5	1	6	0	△3	△2	△3	△1	△2	△2
	A 収支(①-②-③)	35	30	26	29	31	33	34	36	37	38

※1 扶助費+繰出金(国保・後期・介護)+後期高齢者療養給付費負担金

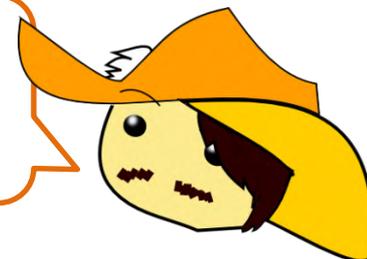
※2 2019年度以降実施分

システム経費  
圧縮のため、  
システム最適  
化を実施！  
※効果は  
2023年度～

## A【経常事業】

扶助費をはじめとする社会福祉経費が伸び続ける厳しい状況の中、消費税率改定による地方消費税交付金の増や、一定の地方交付税や臨時債の措置を見込むことにより収支はおよそ30~40億円(黒字)で推移する。

収支(A)は政策事業等の財源に充てられるのだ



(単位:億円)

中長期財政見通し		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
B 政策事業	④ハード事業	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	市債	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
	一般財源	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	⑤ソフト事業	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	一般財源	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	⑥基金積立	6	4	2	2	4	4	4	4	4	4
	⑦主要プロジェクト事業	40	35	65	99	6	5	0	0	0	0
	市債	27	18	30	38	4	3	0	0	0	0
	一般財源	8	4	4	6	2	2	0	0	0	0
	事業費 ④～⑦	74	67	95	129	38	37	32	32	32	32
市債	40	31	43	51	17	16	13	13	13	13	
B 一般財源	24	18	16	18	16	16	14	14	14	14	
C 公共施設等の 老朽化対策費	⑧事業費	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	市債	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	C 一般財源	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11

### ■主要プロジェクト

<既設定>

・JR総持寺駅周辺・安威川ダム関連・彩都関連・ごみ処理施設長寿命化

<新規設定>

・市民会館跡地活用

### ■その他主要事業

・JR茨木、阪急茨木市駅周辺整備 など(※収支見通しには未計上)

### B【政策事業】

JR総持寺駅整備事業等の完了に伴い、逡減する経費もあるが、市民会館跡地活用等の経費を新たに見込むことや安威川ダム関連事業等を引続き見込むことから、多額の市債発行が必要となる状態が続く。

### C【公共施設等の老朽化対策】

公共施設等の老朽化対策費として、長寿命化を基本に財政負担の平準化を図るため、一定の財源を活用し、予防保全的な改修等を実施する。

2018年度で実施したソフト事業のうち 3億円が経常化する見通し…

(単位:億円)

中長期財政見通し		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
D 政策事業により 経常化する経費	D <sub>1</sub> ソフト事業の新規・拡充経費	3	5	7	9	11	13	15	17	19	21
	D <sub>2</sub> 公債費	0	0	0	2	5	8	11	15	16	17
D 政策事業の経常化分 合計		3	5	7	11	16	21	26	32	35	38

### D【政策事業により経常化する経費】

政策事業の実施により経常化する経費や、主要プロジェクト等の実施において発行する市債の償還費が累積し、後年度に負担が重くのしかかる。

## 中長期財政見通しの総収支

(単位:億円)

中長期財政見通し (年度)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
A 経常経費 収支 (経常経費の黒字)	35	30	26	29	31	33	34	36	37	38
B 政策事業 一般財源	24	18	16	18	16	16	14	14	14	14
C 公共施設等の老朽化対策 一般財源	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
D 政策事業の経常化分 一般財源	3	5	7	11	16	21	26	32	35	38
E 総収支 A-B-C-D	▲3	▲4	▲8	▲11	▲12	▲15	▲17	▲21	▲23	▲25

何も手立てを講じないと2019年度（平成31年度）から収支の均衡が崩れ、その額がどんどん増えていくのね！大変！





---

## (2) 将来を見据えた取組み

---

将来にわたって健全性の確保に努める  
ための財政運営の基本原則

# 財政運営の基本原則 I 柔軟な財政構造の保持

## ビルド&スクラップの実践



## 経常経費の見直し

充実を図る一方で、積み上がる経費相当を見直さないと収支不足になってしまうんだね



### ■ビルド&スクラップの実践

■ビルド

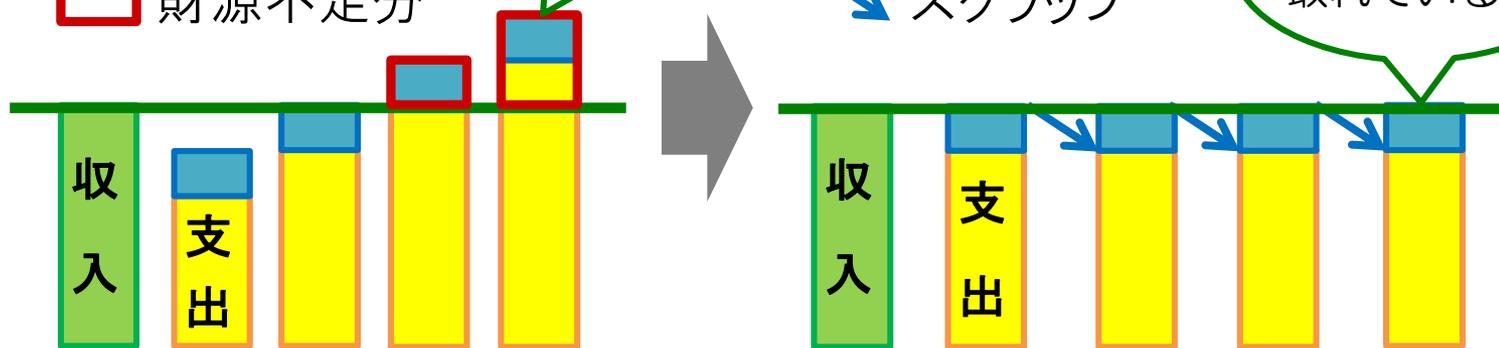
□財源不足分

財源が不足×

■ビルド

↓スクラップ

収支バランスが取れている◎



- ・2019 :▲2億円
- ・2020 :▲3億円
- ・2021~:毎年▲2億円

# 財政運営の基本原則 II 将来への負担の抑制

## ハード事業の適切な選択

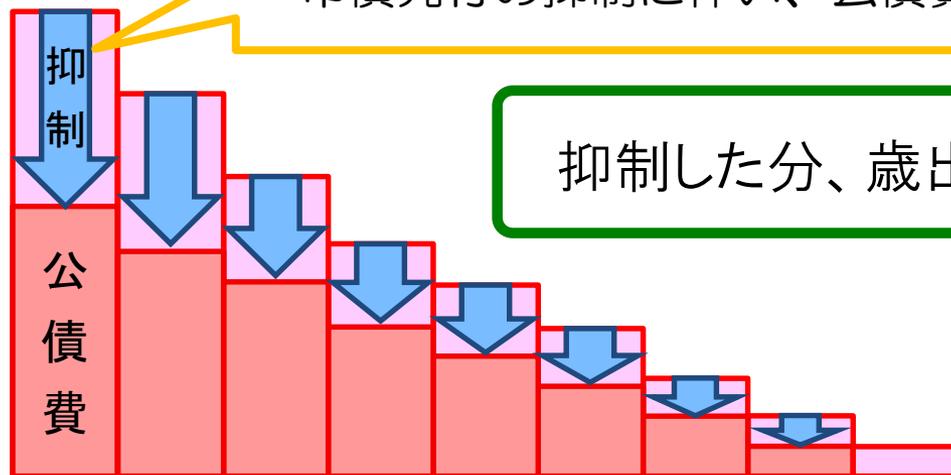


## 市債発行の抑制

ハード事業の適切な選択は、その年だけじゃなく、後年度の公債費負担の抑制にもなるんやで



ハード事業の適切な選択による市債発行の抑制に伴い、公債費を抑制



抑制した分、歳出予算を確保できる

- 〈市負担額〉
- ・ハード選択 2019: 毎年▲2億円
  - ・公債費の減 2024以降: 毎年▲1～▲2億円

# 取組後の財政収支見通し

何も手立てを講じない場合の収支見込み

(単位:億円)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
E 総収支 (A-B-C-D)	▲ 3	▲ 4	▲ 8	▲ 11	▲ 12	▲ 15	▲ 17	▲ 21	▲ 23	▲ 25



取組みの実践

F

取組 I	ビルド&スクラップの実践 ⇒ビルドの財源はスクラップで創出	▲ 2	▲ 5	▲ 7	▲ 9	▲ 11	▲ 13	▲ 15	▲ 17	▲ 19	▲ 21
------	----------------------------------	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------

取組 II	(1)ハド事業の適切な選択 ⇒当年度の財政負担を軽減	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2
	(2)市債発行の抑制 ⇒将来の公債費負担を軽減	0	0	0	0	0	▲ 1	▲ 1	▲ 2	▲ 2	▲ 2



取組みの結果

最終収支 (E-I-II)	1	3	1	0	1	1	1	0	0	0
---------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

財政の健全性の確保に向けた取り組みの実施により収支不足を解消し、黒字を確保できるんだ!



## Chapter 3

---

# 予算編成の取組み

---

「今」と「将来」を見据えた  
「安全・安心」「豊かさ・幸せ」が実感  
できるまちづくりと「健全性」の確保

平成31年度予算は、

## 災害に強い“次なる茨木”を実現する予算へ

『今』と『将来』を見据えた

- ▶ 安全・安心が実感できるまちづくり
- ▶ 豊かさ・幸せが実感できるまちづくり
- ▶ まちづくりを支える『財政の健全性』の確保

の実現が図れる予算編成を！

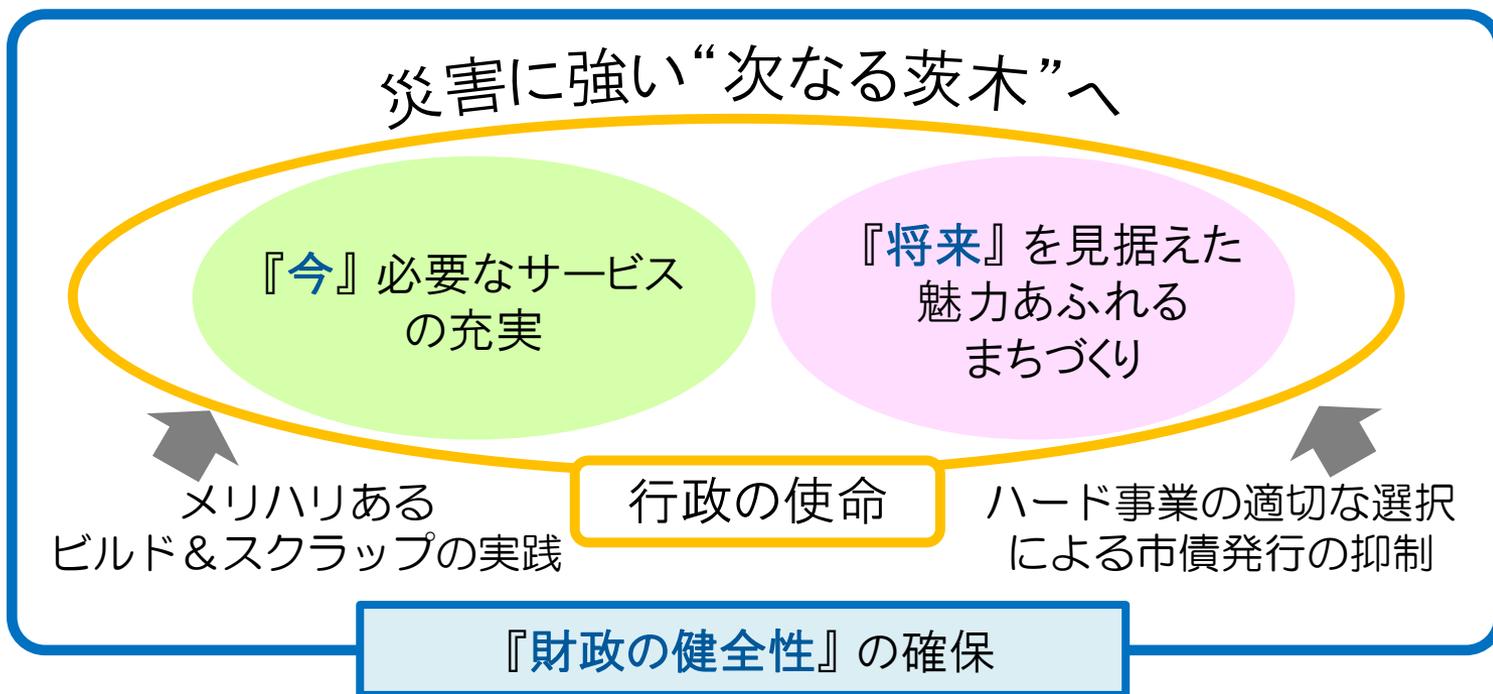
### 予算編成にあたっての基本的な考え方

- 
- (1) 「今」と「将来」に対応した施策の実現と「健全性」の確保
  - (2) まちの持続的発展を果たすための取組の実施
  - (3) 老朽化する公共施設等の長寿命化の推進

# (1) 「今」と「将来」に対応した施策の実現と「健全性」の確保

「財政の健全性」を確保のもと、被害にあわれた方々への支援や安全・安心の対応をしっかりと図るとともに、教育や子育て・福祉等、各施策の推進を図る。

災害に強いまちづくりを推進するとともに、魅力あふれるまちへとつながる事業等を着実に推進する。



## (2) まちの持続的発展を果たすための取組の実施

### ① メリハリあるビルド&スクラップの実践による事業の見直し

#### 《柔軟な財政構造の保持》

#### ビルド

#### ～市民サービスの向上を図る事業の着実な実施～

- ・ 災害にあわれた方々への支援や、安全・安心の実感を土台とした、さらなる豊かさや幸せを実感できるまちの実現
- ・ 実施計画前期基本計画最終年度であることを踏まえた、事業の進捗状況の点検等と後期基本計画につながる予算

#### スクラップ

#### ～事業の見直し等による健全な財政運営の推進～

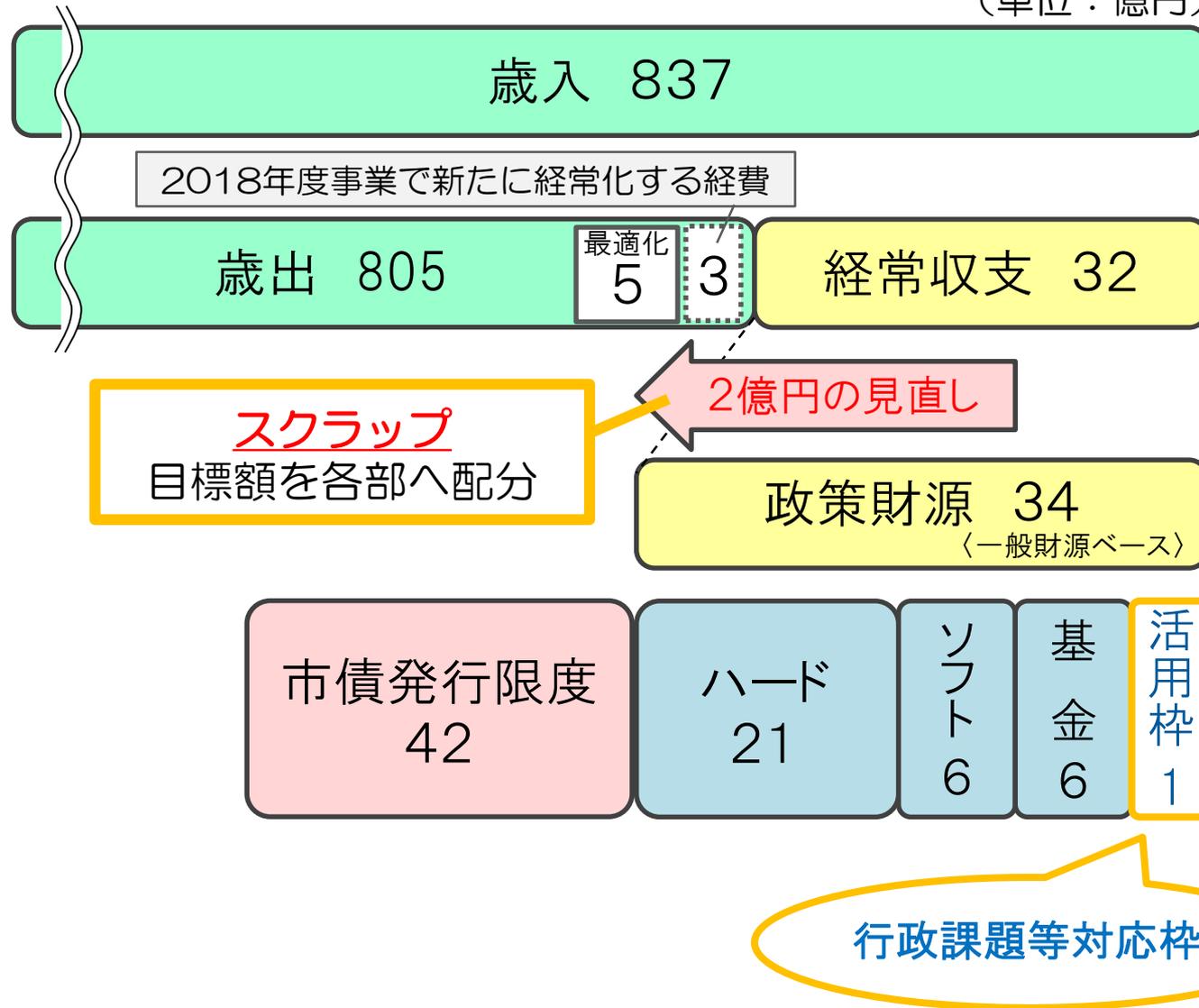
- ・ 行財政改革指針に基づき「ビルドに要する経費はスクラップにより対応する」ことを基本姿勢とする
- ・ 各部課長の権限と責任のもとで、主体的に全事業について総点検し、見直し目標額達成に向け全庁的に取組む  
〈目標額2億円を各部に配分〉

### ② ハード事業の適切な選択による市債発行の抑制

#### 《将来への負担の抑制》

# 当初予算編成に向けての財源フレーム

(単位：億円)



### (3) 老朽化する公共施設等の長寿命化の推進

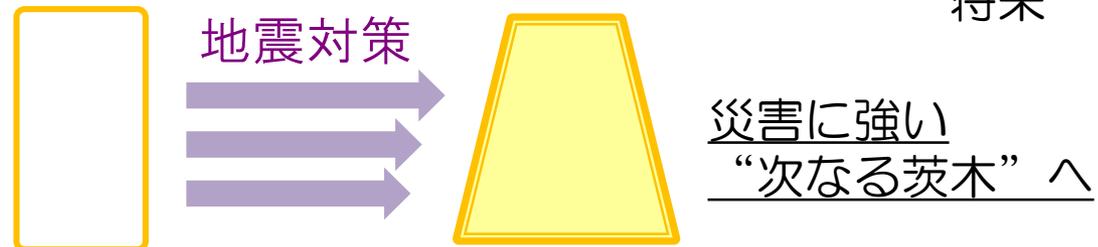
「公共施設等マネジメント基本方針」及び「茨木市公共建築物保全方針」に基づき、長寿命化に努め、一時期に集中する財政負担の平準化と低減を図るため、財政計画で確保する財源（H31：11億円）を活用し、予防保全的な改修等を実施。

#### 予防保全



#### + 地震対策

大阪府北部地震を踏まえた公共施設の改修



さらに平成31年度は福岡市政の4年目（最終年度）にあたるんだ。



## 市長マニフェスト

## 確かな未来を実現するための「政策6本柱」

みんながいきる	人と自然が共生する持続可能なまちに〔まちづくり〕
らしさをいかす	次代の茨木を担う人を育むまちに〔教育〕
いのちを守る	ともに支え合い・健やかに暮らせるまちに〔福祉〕
活気あふれる	都市活力があふれる心豊かで快適なまちに〔経済〕
いざ、に備える	ともに備え命と暮らしを守るまちに〔安全〕
議論を重んじる	対話重視で公平公正な市政運営〔対話〕

- (1) 昼も夜もにぎわい、憩える中心市街地と駅前再整備
- (2) 市民に愛され、使われる新しい芸術文化施設の建設
- (3) 渋滞ゼロをめざしたまちづくり
- (4) めざせ！待機児童ゼロ
- (5) ひとりも見捨てない全国トップレベルの教育
- (6) 大学や企業と連携したスポーツ・生涯学習の推進
- (7) 安心できる地域医療・救急医療体制の充実
- (8) 生涯現役へ向けた介護予防
- (9) ライフステージに合わせた障がい者施策の推進
- (10) 新しい価値を創造する起業支援
- (11) 市内企業と世界をつなぐ
- (12) 歴史・文化のまち魅力の発信
- (13) 田畑、里山の再活性化
- (14) 地域を守る自主防災組織の支援体制充実
- (15) 災害時も役立つ公園づくり
- (16) 防犯体制の充実
- (17) 職員と市民のタウンミーティング実施
- (18) 政策決定プロセスの見える化
- (19) 若い世代の知恵がいきるまちづくり



あと、総合計画前期基本計画の最終年度でもあるから、事業の進捗とか色々点検しないとね！

## 点検のポイント

### 取組の目標及び各主体が行うこと

取組	現状と課題及び目標	各主体が行うこと
①市民との協働による地域福祉の推進	《現状と課題》 民間のボランティア団体や市民活動団体などが地域福祉の推進の担い手としてさまざまな活動を行っていますが、担い手の固定化や高齢化などの問題があります。	《市》 福祉活動や更生保護活動などに、子どもや若者、団塊の世代など幅広い世代が参加しやすい環境づくりに努めるとともに、地域のボランティア団体等への支援を図ります。
	《目標》 誰もが気軽に福祉活動やボランティア活動に参加できる環境が整い、地域福祉の担い手となっています。	《市民》 福祉活動やボランティア活動への参加に努めます。
		《事業者・団体》 事業者は、ボランティアの受け入れを積極的に行うとともに、ボランティア活動の充実を図ります。
	《現状と課題》 支援を必要とする市民の発見、見守りの体制を構築するとともに、地域の施設を拠点とし、	《市》 地域福祉ネットワーク※ <sup>1</sup> のさらなる充実や専門

※第5次茨木市総合計画から抜粋

平成31年度は、**福岡市政の4年目**であること  
や、**総合計画前期基本計画最終年度**にあたること  
への対応を図ったうえで、

“災害に強い次なる茨木”を実現していく予算

- ▶ **安全・安心**が実感できるまちづくり
- ▶ **豊かさ・幸せ**が実感できるまちづくり
- ▶ まちのづくりを支える『**財政の健全性**』の確保  
の実現に努めよう！



さらなる飛躍をめざして  
力を合わせて頑張りましょうね！



いばらきの今と未来をまもるため



ご静聴ありがとうございました！